

## 平成29年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

<b>1 学校名</b>	鳥栖市立旭小学校		
<b>2 所在地</b>	鳥栖市村田町109-1		
<b>3 校長名</b>	庄嶋 巖		
<b>4 学級数</b>	34学級（支援学級10学級）	<b>5 実施学年</b>	全学年
児童生徒数	834人	児童生徒数	834人
<b>6 取組のねらい</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある人や高齢者との交流及び疑似体験を通して、人の違いや多様性を受け入れ、支え合いや助け合いの気持ちや態度を養う。</li> <li>・ 学校環境のユニバーサルデザイン化（以下UD化）を図り、すべての児童にとって学びやすくスムーズに生活できる環境を作る。</li> <li>・ 授業に特別支援教育の視点を取り入れ、UD化された授業を実践し、すべての児童が「わかった！できた！」を実感できるよう、授業の工夫や改善を推進していく。</li> </ul>			
<b>7 取組の実際</b>			
（1）人の違いや多様性への理解			
①福祉体験活動（4年生の実践）			
<p>本校の4年生（男子78名，女子80名，計158名）は，総合的な学習の大単元で「福祉について考えよう」をテーマにした学習を行った。本単元の学習では，鳥栖市社会福祉協議会の方や地域でサークル活動をされている方をゲストティーチャーとして招聘し，盲導犬体験・交流，認知症サポーター養成講座，点字体験，手話体験，アイマスク体験，車いすテニス体験・交流を実施した。</p>			
<b>盲導犬体験・交流</b>		<b>認知症サポーター養成講座</b>	
			
視覚障害のある方の生活上の困り感や願いを直に聞く機会をもった。盲導犬と出会ったときの注意点も教わった。		高齢者の認知症についての理解と対応についてゲストティーチャーを招き，教わった。	

点字体験



点字サークルの方をゲストティーチャーとして招いて実施。国語の授業と関連させ、実際に点字板を使って、名刺などを点字で打つ体験活動を行った。

手話体験



手話サークルの方をゲストティーチャーとして招き、挨拶など簡単な手話を習い、聴覚障害のある方のコミュニケーションについて教わった。

アイマスク体験は、視覚障害がある方の困り感を体感するため、各学級で実施した。友達とペアになり、一人がアイマスクを装着し、もう一人の友達が手を引いて校舎内を歩く体験活動を行った。

車いすテニス体験では、車いすテニスのコーチと実際に車いすテニスをしている小学生をゲストティーチャーとして招き、車いす生活の話を聞いたり、車いすテニスを体験したりした。

②クラブ活動（手話クラブ）

今年度、本校の手話クラブは、11名の児童で活動を行っている。活動に際しては、手話サークルの方を毎回招き、簡単な挨拶、指文字、手話を使った歌、手話を使った伝言ゲームなどを習いながら活動している。

活動を通して、手話は、はっきり自分の体の前でやらなければ伝わりにくいことや、指だけでなく、口を一緒に動かしたり、体全体を使ったりして伝えることが大切であることを学んだ。

指文字を学ぶ場面



手話で相手と交流する場面



## (2) 旭小版「UDチェックリスト」

教室環境や授業のUD化など、各学年や学級のUD化の状況を把握し、学習環境及び授業方法の改善を図るためのアセスメントとして、旭小版「UDチェックリスト」を作成・活用している。シートの内容は、①教室環境、②授業方法、③個人差への配慮、の3領域で構成されている。三角チャートで示されたグラフのバランスで、UD化の進捗状況を確認することができるようになっている。年度内に2回チェックすることで、学級内のUD化がどのように変化したのかが視覚的に比較検討できる。

### ① 教室環境の項目

教室環境	1	黒板周辺は、視覚刺激の少ないすっきりとした配慮を行っている。
	2	1日のスケジュールが提示されていて、活動場所や予定変更が視覚的に確認できる。
	3	宿題や連絡帳等を提出する場が、一目で分かるよう工夫している。
	4	教室後方や側面の棚に何を収納するかや収納の仕方が決められており、すっきり整理されている。
	5	既習内容のふり返りができるような掲示物の工夫を取り入れている。
	6	教師用棚や本棚等が整理され、刺激になるものは目につかないような工夫を取り入れている。
	7	引き出しの収納の仕方は、学年で統一した方法を取り入れている。
	8	個人の机の横には、手荷物をできるだけ下げないようになっている。
	9	学級や学年で守るべきルールが、室内に明示されている(確認できるようにしている)。
	10	望ましい行動や発言が認め合えるような手立てをとり、視覚的に確認できるように示されている。

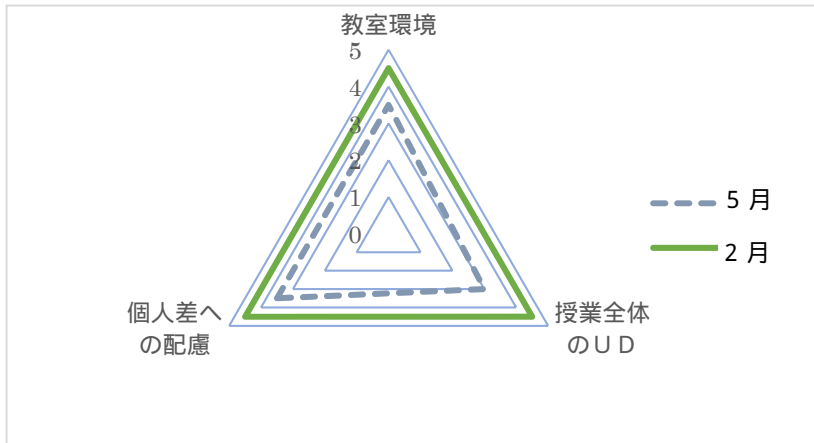
### ② 授業方法

授業全体のUD	11	学習のねらいや内容をシンプルにしぼり、授業を計画・実践している。
	12	授業の導入の段階で、学習内容や活動の流れを示している。
	13	授業の導入の段階で、本時の学習のめあてを明示している。
	14	学習のねらいが達成できるように、スモールステップで展開できるような準備をしている。
	15	板書するチョークの色を意図的に使い分けている(学年で統一している)。
	16	学習の展開や思考の流れが見て取れ、授業のポイントが見て分かる板書の書式を取り入れている。
	17	言葉での説明だけではなく、具体物や図、写真等を用い、視覚的に提示している。
	18	説明する内容を分かりやすくするために、ICT機器を活用している。
	19	ペア学習やグループ学習等、授業内容を共有させる時間を意識的に取っている。
	20	授業のまとめの段階で、学習した大事なポイントをふり返る時間を取っている。

### ③ 個人差への配慮

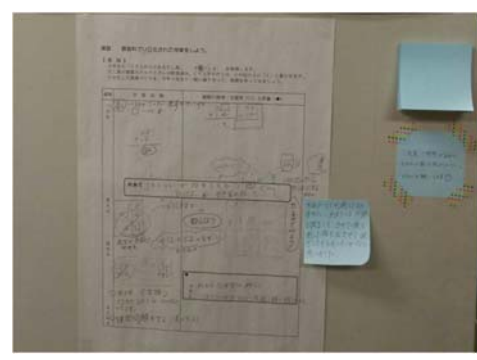
個人差への配慮	21	一斉指導や少人数指導の授業の中で、つまづきが予想される児童を意識して準備を行っている。
	22	習熟度や人間関係、本人の特性に配慮した座席配置やグループ編成をしている。
	23	必要に応じて活動の手順書を示し、自分で確認しながら活動できる手立てを取り入れている。
	24	課題解決に時間を要する児童のために、問題を解く時間とったり量の調節をしたりしている。
	25	一斉指示で理解することが難しい児童生徒に、個別にもう一度伝えたり書いて示したりしている。
	26	話すことが苦手な児童に、事前に話す内容を書かせておいたり、答えやすい質問をしたりしている。
	27	書くことが苦手な児童に、ワークシートを用いたり、板書の要点だけを書き写させたりして、書く量を調整している。
	28	読むことが苦手な児童のために、漢字にふり仮名をふったり読む量を減らしたりしている。
	29	集中力が維持できるように、授業をいくつかの活動ユニットで構成している。
	30	児童生徒の興味・関心や習熟度等に合わせた活動や課題の内容を複数用意して、選択できるようにしている。

#### ④三角チャート



ある学級を例にとると、5月の段階が点線のUD化の状況であり、授業全体のUD化がやや低いと判断できる。この学級は、授業全体のUD化を意識的に進め、その過程で他の2項目も底上げが図られていることが分かる。

(3) 教職員の障害理解・UDについての研修  
 学校環境や授業のUD化を推進するにあたり、教職員の理解啓発を進めることが不可欠である。今年度は、夏休みに研修機会を設け、発達障害についての理解啓発として、発達障害のある人の感覚世界についての研修及びUD化した授業を行うための指導案作りの演習を実施した。



#### (4) 学習環境のUD化

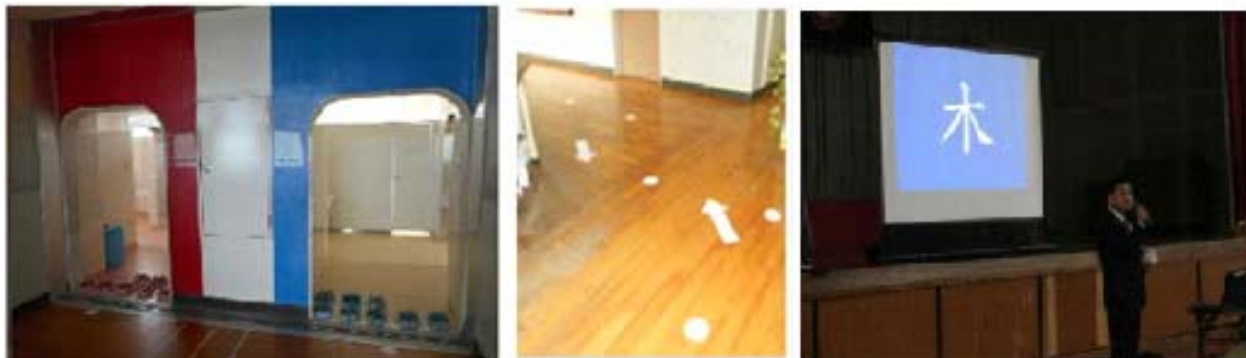
##### ①教室環境のUD化

教室には様々な学習道具や掲示物など、発達障害のある児童にとって視覚刺激になる物がある。そのため、環境刺激を軽減したり学習に関するルールを決めたりすることで、集中し落ち着いて学習活動に参加することができると考え、実践している。

#### 【教室環境のUD化の取り組み例】

<p>視覚刺激になる学級目標や掲示物を極力なくしてすっきりさせ、集中しやすく整備している。</p>	<p>収納の仕方や場所が整備されると、すぐに使いたい物がとれ、ストレスがかからない。見た目もすっきりする。</p>	<p>児童がすぐに確認できる場所に、学校のめあてや学級のルールを明示し、学習規範を徹底していく。</p>

## ②学校環境のUD化



児童の生活空間である学校校舎が、落ち着いて生活できる環境になるよう改善を図っている。今夏にトイレ改修工事があり、車椅子でも利用できる多目的トイレや、LGBTに配慮した全室個室のトイレが設置された。廊下は、矢印や中央点線で歩行する方向を示している。また、大きな音が苦手な児童に配慮し、ノーチャイムを2学期から実施している。

その他に、全校朝会では、校長講話や生活の話をプロジェクターに映し出し、視覚的に話の内容を確認しながら理解できるような手立てを取り入れている。

### (5) 授業のUD化

通常学級に在籍する発達障害児を含め、すべての児童が「わかった！できた！」と実感できるよう、授業のUD化を図っている。UD化された授業とは、教科教育の中に特別支援教育の手立てを取り入れた授業である。教材や題材を「焦点化」「視覚化」「共有化」の3つの視点から検討し、スムーズに思考が流れ、学びをクラス全体で共有しながら深められる授業である。

本校では、校内研として昨年度は教科「日本語」、今年度は算数科を中心に、授業のUD化の研究に取り組んでいる。

#### 【授業のUD化の取り組み例】

<p>プレゼンテーション機能や動画を用いたICT活用は、視覚的に思考の流れを示したり思考を整理させたりするための有効な手立てになる。</p>	<p>言語情報を視覚的に示すことも、スムーズな思考と理解の有効な手立てになる。視覚情報は、よりシンプルに必要な情報だけを与えるようにする。</p>	<p>自分の考えを明確にしたり互いの考えを共有したりして、学習内容の理解を深めることができる。集中できる時間が短い児童も、活動が持続できる。</p>

## 8 取組の成果と課題

### 成果

- 様々な福祉体験活動を通して、障害のある方の困り感を感じ取ったり、見聞きしたことから困り感を知ったりしたことで、相手の気持ちや立場になって行動することの大切さを考えるよい機会となった。
- 職員研修を通して、教職員自身がUD化について学ぶことが、自らの指導方法の見直しや学年及び学級経営の改善などの意識向上につながった。また、チェックリストを利用して、各学級のUD化の状況や行わなければならない項目が具体化できたことで、取り組むべき内容が可視化され、取り組みやすくなった。
- 学年単位で学習の始まりや終わりの挨拶、準備の仕方などのルールを統一することで、進級時の変化が苦手な児童も、新しい学級にスムーズに適応しやすくなった。
- 教室の環境刺激を軽減したり個人差への配慮を意識して取り入れたりしたことで、落ち着いて学習に参加できる児童が増え、学校全体が落ち着いた雰囲気での学習活動に取り組んでいる。

### 課題

- 他団体や異校種との事前の打ち合わせを行う時間の確保が十分とれない。
- 異動してきた教職員や初任者に対してのUD化についての共通認識づくりは、足並みを揃えて実践していく上で今後の検討課題である。
- まだ部分的な授業のUD化である。今後は通常学級の授業はUD化されているのがスタンダードになるよう、全教科に授業のUD化を広げていきたい。